

**「心の復興」プロジェクト “ふるさと、石巻の情景”**  
**石巻専修大学が3Dプリンタで作成した立体模型を本年も一般公開**  
**～ MUTOH 本社ショールームにて12月15日より2016年3月14日まで開催～**

MUTOHホールディングス傘下で、3Dプリンタ販売などを手掛ける武藤工業株式会社(本社:世田谷区、社長:早川 信正)は、石巻専修大学(本校:石巻市、学長:坂田 隆)様が震災直後に、大学として復興に向けた支援策の話し合いの中で生まれた「復興共生プロジェクト」の一環としてはじめられた、「3Dプリンタ活用による石巻市沿岸部の復元立体模型の製作」プロジェクトを、陰ながらサポートしております。

大学様のご厚意を受け、昨年より移動展示用に作成された1/4スケールモデル(1m×1m)を、震災後の航空写真など当時の記録も併せて、再び弊社ショールームにて展示し、一般公開する機会を頂戴いたしました。

また本年は、東日本大震災5年にあたります2016年3月11日をまたいでの、展示期間を頂戴いたしました。(同日、同時刻に、グループ社員代表で黙とうを捧げご冥福を祈る予定です)

詳細は、別記要綱をご参照の上、より多くの方々にご覧いただきたく存じ上げております。

### MUTOH ショールームでの模型設置風景(2014年撮影)



プロジェクト作成模型は、石巻市門脇町に立つ「がんばろう!石巻」看板の隣接地に完成した震災伝承施設「東日本大震災メモリアル南浜つなぐ館」に本年11月22日より一般公開されております。(別紙ご参照ください)

## 記

「3D プリンタ活用による石巻市沿岸部の復元立体模型」移動展示用1/4スケールモデル

展示場所: MUTOH ホールディングス(株)本社1F ショールーム

世田谷区池尻3丁目1-3

展示期間: 2015年12月15日(火)～2016年3月14日(月)

土・日、祝祭日ならびに年末年始(12月29日～1月3日)を除く

公開時間: 平日午前10:00～午後5:00



東急田園都市線「池尻大橋」駅 西口出口直結(階段上がり地上部入口)

以上

### 【展示に関するお問い合わせ先】

MUTOH ホールディングス

経営管理本部 阿部

TEL:03-6758-7100

### 【立体模型に関するお問い合わせ先】

石巻専修大学

経営学部 益満 環(ますみつ たまき)

TEL:0225-22-7716 FAX:0225-22-7746

e-mail:masumitsu@isenshu-u.ac.jp

## ＜製作ストーリー＞

石巻専修大学は、震災では幸運にも津波の直接の被害はなかったものの、学生・教職員の方々やご家族には、多くの被災者の方々がおられました。震災直後に、大学として復興に向けた支援策の話し合いの中で生まれた「復興共生プロジェクト」の一環として、最初に持ち上がった案件が、津波により崩壊状態となった沿岸部を復元することで、この土地に生きた住民の歴史や、生きざまを思い起こす昔の町並みで形にできないか？と。その姿を見ることで復興のための元気、希望を取り戻して前に進んでいけるのではないかと。の願いが込められた「3D プリンタ活用による石巻市沿岸部の復元立体模型の製作」プロジェクトでした。

石巻専修大学による「復興共生プロジェクト」取り組みは：

<http://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/isocial/fukkou/torikumi.html>

2011年7月にプロジェクトは動き出すのですが、大学にはデジタルデータなど無く、地図ソフト制作会社や測量会社などへ問い合わせを続ける日々の中、国際航業様が3D データを無償で提供していただけることとなり、一つ目のハードルをクリア。しかし、3D プリンタの最大出力範囲にデータを分割したり、データ補正作業を繰り返すと経験したことのない難題の連続。さらに家の色や形などを徹底してチェックする作業を、正月も春休みも返上して繰り返し、翌5月に完成に辿り着きました。

3D プリンタ活用による石巻市沿岸部の復元立体模型の製作

『ふるさと、石巻の情景～ 石巻市門脇町・南浜町周辺 ～』の軌跡は：

[http://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/isocial/fukkou/torikumi/3dprinter\\_mokei.html](http://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/isocial/fukkou/torikumi/3dprinter_mokei.html)

同、詳細は：

[http://www.senshu-u.ac.jp/library/01\\_ishinomaki/fukkou-kyousei-project/02\\_torikumi/02\\_3d\\_printer/furusato\\_fukugen.pdf](http://www.senshu-u.ac.jp/library/01_ishinomaki/fukkou-kyousei-project/02_torikumi/02_3d_printer/furusato_fukugen.pdf)

同、復元立体模型の製作過程は：

[http://www.senshu-u.ac.jp/library/01\\_ishinomaki/fukkou-kyousei-project/02\\_torikumi/02\\_3d\\_printer/seisakukatei.pdf](http://www.senshu-u.ac.jp/library/01_ishinomaki/fukkou-kyousei-project/02_torikumi/02_3d_printer/seisakukatei.pdf)

完成した立体模型は、2012年7月から石巻信用金庫様本店で展示され、1か月に200人（延べ2500人）を超える方々が訪れ、「我が家を見つけた」と涙ぐむ声や、「地域の姿を思い出させてもらった」など多くの感謝の言葉が聞かれたそうです。その後も石巻市役所をはじめ、市民ワークショップなどへの貸し出しが行われ、**本年11月22日からは、石巻市門脇町に立つ「がんばろう！石巻」看板の隣接地に完成した震災伝承施設「東日本大震災メモリアル南浜つなぐ館」にて一般公開**されるなど、多くの方々の希望の糧となり、復興計画への道しるべ的な存在として活躍しております。

また、石巻専修大学では「石巻市沿岸部の復元立体模型」の活動を基に、東日本大震災で被災した門脇小学校が閉校となることを受け、門脇小学校やPTAからの呼びかけにより「門脇小学校旧校舎の立体模型」の製作会を実施するなど、3Dプリンタ活用による立体模型の製作を通じて「復興共生プロジェクト」の活動を積極的に展開されています。

<参考画像>

1) 3Dプリンタ活用による石巻市沿岸部の復元立体模型



2) 震災伝承施設「東日本大震災メモリアル南浜つなぐ館」での展示風景



3) 「門脇小学校旧校舎の立体模型」の制作会実施の取組み



## <ご挨拶>

このたび、昨年に引き続き石巻専修大学様の「3D プリント活用による石巻市沿岸部の復元立体模型の製作」プロジェクトで製作されました移動用1/4スケール模型を、弊社ショールームに展示し一般の皆様にご覧いただけますことを、大変光栄に感じております。

展示に至る経緯は、MUTOHホールディングス傘下で、3Dプリンタ販売などを手掛ける武藤工業株式会社が、石巻専修大学(本校:石巻市、学長:坂田 隆)理工学部様へフルカラー3Dプリンタを2010年に設置納入いたしましたご縁で、東日本大震災において甚大な被害を被った石巻の沿岸部を立体模型で復元し、被災者の方々に元気、希望、奮起を醸成するきっかけを願ってはじめられた「3D プリント活用による石巻市沿岸部の復元立体模型の製作」プロジェクトに賛同し、同型プリンタで使用される石膏パウダー材料をご提供しておりますことによるものです。

同プロジェクトは、経営学部准教授の益満 環氏、理工学部准教授の高橋 智氏が発起人となり、弊社以外にも、石巻信用金庫様、国際航業株式会社様、財団法人前川報恩会様、日本電気株式会社様、NEC ネットイノベーション株式会社様が協賛企業として加わり、文部科学省のご支援を受け、拓建技術株式会社様、株式会社西條設計コンサルタント様のご協力と、石巻専修大学の8名の学生様とご指導された教職員の皆様、そして被災に合われた住民の皆様の心のご支援を受け200日以上を費やして完成したものです。

今般大学様のご厚意により、本年再び、震災記憶の風化防止と共に3Dプリンタ技術に触れていただける機会をいただきましたことに、グループ社員一同感謝申し上げますとともに、短い期間ではございますが、報道関係者様はじめより多く一般の皆様にも、彼らの情熱で作られた“ふるさと、石巻の情景”を是非ご覧になっていただきたく、ご案内申し上げる次第です。

MUTOH ホールディングス株式会社  
代表取締役社長 早川 信正



今後の継続的な支援を約束する早川社長(左)と握手で答える益満准教授(右)(2014年本社にて撮影)

MUTOH ホールディングスならびにグループ会社は、これからも引き続き石巻専修大学の「復興共生プロジェクト」への支援を続けてまいります。